

## 総務委員会行政視察報告書（令和7年10月29日～30日）

日 時：令和7年10月29日（水）14時から
視 察 先：福島県相馬市
視察事項：東日本大震災の経験を踏まえた防災施策など、相馬市の取組や復興状況、大規模災害時の行政の務めについて
<p>内 容：質問事項</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 災害時の初動対応と情報伝達について<ul style="list-style-type: none"><li>・大規模災害発生時、どのように避難所を開設・運営したのか。避難所運営における行政、住民、自主防災組織等の役割分担はどのような体制だったのか。</li><li>・発災直後、行政職員はどのように行動したのか。職員自身の安全確保と、災害対応のバランスをどのように対応されたのか。</li></ul></li><li>2. 復旧・復興プロセスについて<ul style="list-style-type: none"><li>・震災からの復旧・復興において、復興計画策定に関し、住民の意見をどう反映させたのか。計画を進める上で最も困難だった点と成功した取組について。</li><li>・被災した公共施設の再編や、老朽化対策をどのように進めたのか。その際の住民合意形成のプロセスについて。</li></ul></li><li>3. 地域コミュニティの再生と住民の心のケアについて<ul style="list-style-type: none"><li>・災害が地域コミュニティに与えた影響と再生に向けた取組について、住民が地域に戻る上で、コミュニティを再構築するためにどのような支援を行ったのか。特に、仮設住宅や復興住宅における住民間の交流促進策について。</li><li>・震災後、住民の心のケアをどのように行ったのか。行政が提供できる支援の範囲や専門機関との連携に状況について。</li></ul></li><li>4. 災害に強いまちづくりについて<ul style="list-style-type: none"><li>・今後の災害に備えた都市計画やインフラ整備、危機管理体制の強化など、震災の経験を踏まえどのように見直したのか。また、東大和市のような人口密度の高い都市に適用できる教訓について。</li><li>・震災を教訓とした災害時の事業継続計画（BCP）の策定や、民間事業者との災害協定など、災害時の連携体制をどのように構築されているのか。</li></ul></li></ol>
<p>視察を終えて</p> <p>相馬市を視察先にと決めたのは、令和7年6月に当市で市職員と防災関係者向けに開催された、立谷秀清相馬市長の講演を伺い、立谷市長のリーダーシップに深く感動し、是非とも現状を視察させていただきたいと強く感じたからである。</p> <p>「相馬市防災備蓄倉庫」は、3,873㎡の敷地面積に、備蓄倉庫棟、仮設トイレ倉庫棟、緊急離発着ヘリポート、消防団訓練スペースを設け、備蓄倉庫棟には、毛布や布団セット、飲料水、主食、副食、レスキューシート、折りたたみリアカー、組立トイレ、石油ストーブ、発電機、災害時用煮炊き窯、ポリタンクなど、災害時の教訓を活かし有事に備えるための備蓄品が電動式移動ラックに多数収納されていた。相馬市役所は、災害時に防災拠点として機能できるよう各フロアの廊下が広く設計されていた。また、立谷市長との面談の時間をいただき、災害時の混乱や情報伝達の課題、復興への道筋など、立谷市長の取組内容を詳細に伺うことができ、東大和市の防災施策に活かすべく多くを学ぶことができた。</p>

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。

## 総務委員会行政視察報告書（令和7年10月29日～30日）

日 時：令和7年10月30日（木）9時から
視 察 先：福島県南相馬市
視察事項：東日本大震災の経験を踏まえた防災施策など、南相馬市の取組や復興状況、消防・防災センターについて
<p>内 容：質問事項</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 災害時の初動対応と情報伝達について<ul style="list-style-type: none"><li>・大規模災害発生時、どのように避難所を開設・運営したのか。避難所運営における行政、住民、自主防災組織等の役割分担はどのような体制だったのか。</li><li>・発災直後、行政職員はどのように行動したのか。職員自身の安全確保と、災害対応のバランスをどのように対応されたのか。</li></ul></li><li>2. 復旧・復興プロセスについて<ul style="list-style-type: none"><li>・震災からの復旧・復興において、復興計画策定に関し、住民の意見をどう反映させたのか。計画を進める上で最も困難だった点と成功した取組について。</li><li>・被災した公共施設の再編や、老朽化対策をどのように進めたのか。その際の住民合意形成のプロセスについて。</li></ul></li><li>3. 地域コミュニティの再生と住民の心のケアについて<ul style="list-style-type: none"><li>・災害が地域コミュニティに与えた影響と再生に向けた取組について、住民が地域に戻る上で、コミュニティを再構築するためにどのような支援を行ったのか。特に、仮設住宅や復興住宅における住民間の交流促進策について。</li><li>・震災後、住民の心のケアをどのように行ったのか。行政が提供できる支援の範囲や専門機関との連携に状況について。</li></ul></li><li>4. 災害に強いまちづくりについて<ul style="list-style-type: none"><li>・今後の災害に備えた都市計画やインフラ整備、危機管理体制の強化など、震災の経験を踏まえどのように見直したのか。また、東大和市のような人口密度の高い都市に適用できる教訓について。</li><li>・震災を教訓とした災害時の事業継続計画（BCP）の策定や、民間事業者との災害協定など、災害時の連携体制をどのように構築されているのか。</li></ul></li></ol>
<p>視察を終えて</p> <p>南相馬市は東日本大震災と原発事故という甚大な災害を乗り越え、復興と地域の再生、防災、減災への取組を継続的に推進されている。避難所運営では、市職員が24時間交代で避難所勤務を行い、市民要望などに従事した。復興計画策定に向けた協議では、市の将来を担う小・中学生から意見を募り、子どもたちの意見を踏まえ検討された。心のケアの取組では、避難所巡回健康相談や在宅巡回診療、職員のメンタルヘルスケアなどを実施。危機管理体制の強化では、災害対応は防災担当部署のみでは対応できないため、地域防災計画を見直し、具体的にどの部署（課）が何をするかを明示し担当課の判断で対応する。南相馬市消防・防災センターでは、東日本大震災からの教訓を後世に残すため「東日本大震災から15日間の記録」として、南相馬市の被害状況や災害対応等を記録、また、災害時の対応、津波発生のメカニズムや津波の高さなど防災に関する情報を展示。公共施設の再建、インフラの復旧、除染作業などは進んでいるが、人口減少や高齢化、移住促進などが今後の課題。</p>

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。